

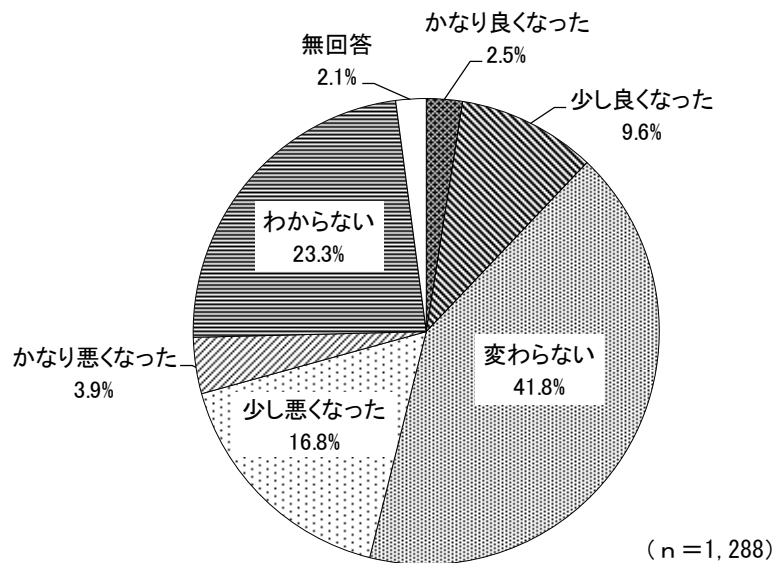
17 犯罪と治安対策について

(1) 県内の治安状況の変化

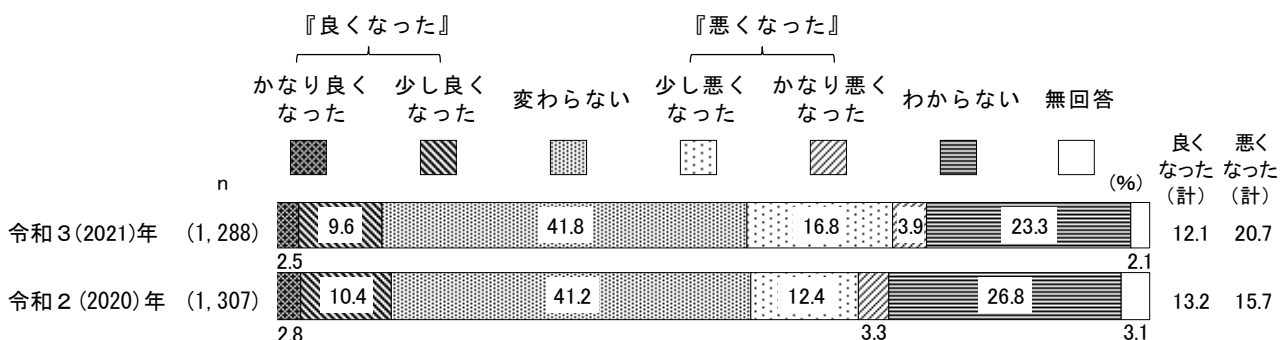
問46 県内の治安は、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,288]

1	かなり良くなった	2.5%	4	少し悪くなった	16.8%
2	少し良くなった	9.6%	5	かなり悪くなった	3.9%
3	変わらない	41.8%	6	わからない	23.3%
				(無回答)	2.1%

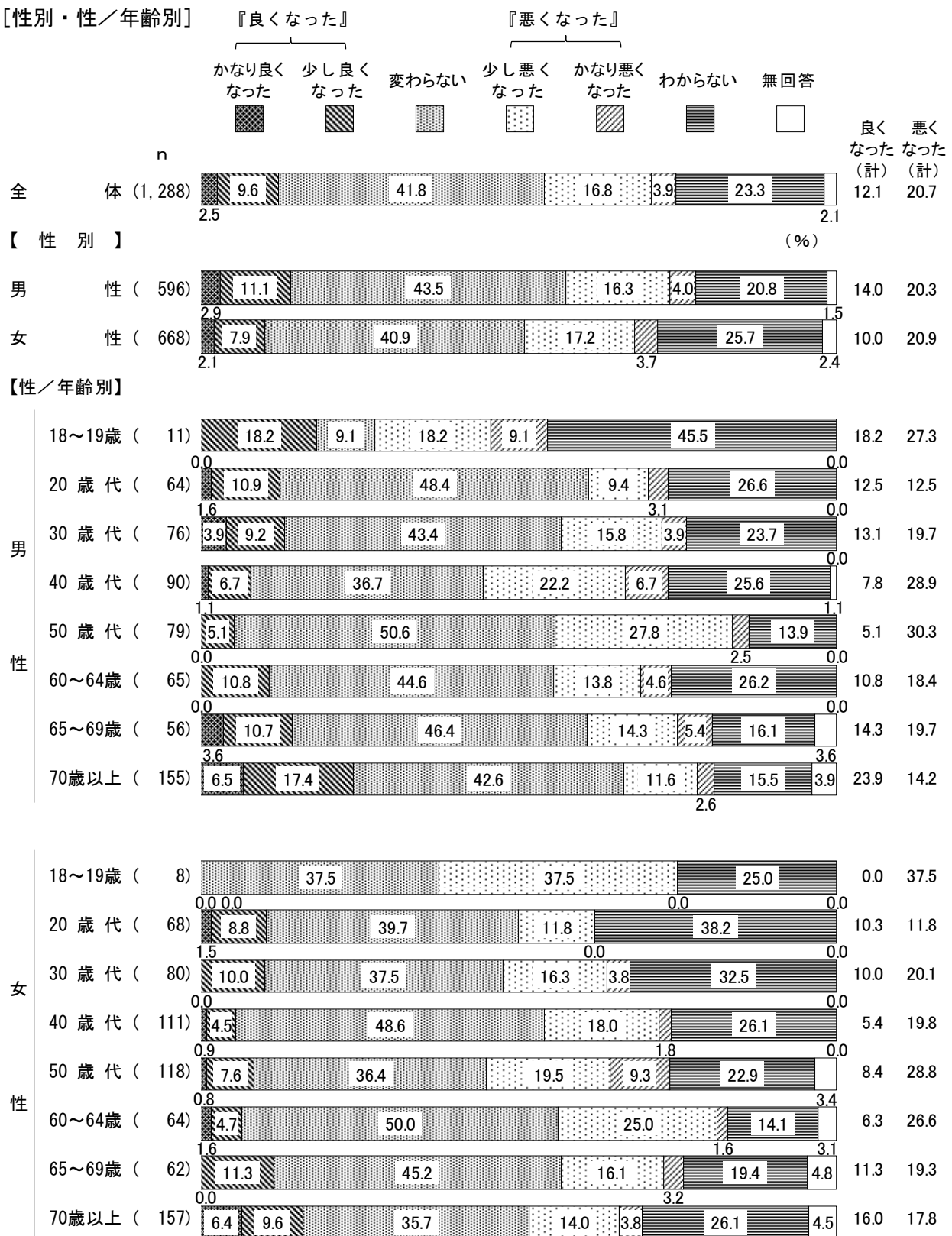


全体で見ると、「かなり良くなった」(2.5%)と「少し良くなった」(9.6%)の2つを合わせた『良くなった』(12.1%)は1割を超えている。一方、「少し悪くなった」(16.8%)と「かなり悪くなった」(3.9%)の2つを合わせた『悪くなった』(20.7%)はほぼ2割となっている。「変わらない」(41.8%)は4割を超えている。



前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、『悪くなった』が5.0ポイント増加している。

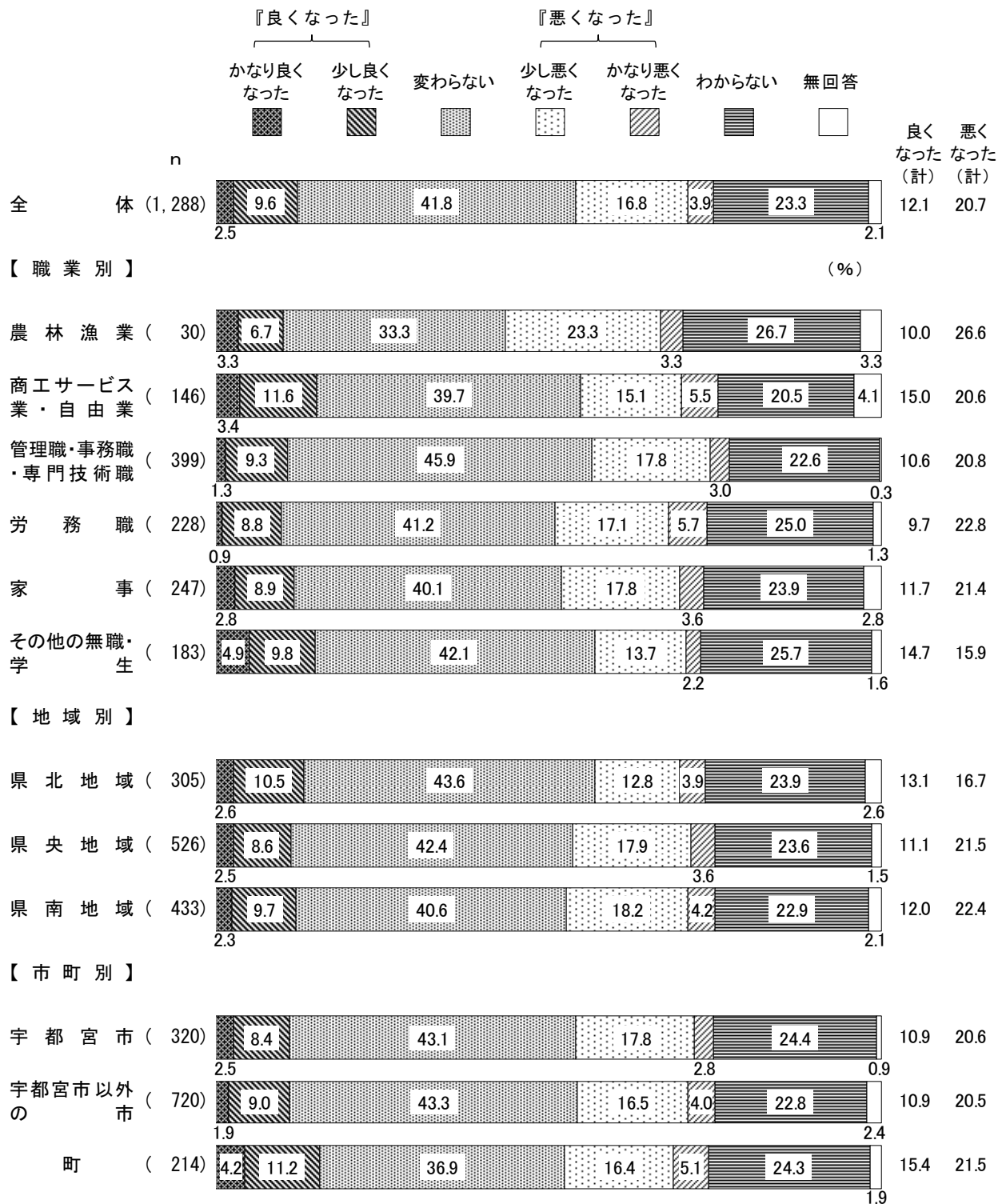
【性別・性／年齢別】



性別で見ると、『良くなった』では〈男性〉(14.0%)が〈女性〉(10.0%)より4.0ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『良くなった』では〈男性70歳以上〉が23.9%と高くなっている。『悪くなった』では〈男性50歳代〉が30.3%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別で見ると、「かなり良くなった」では〈その他の無職・学生〉が4.9%で他の職業と比べて高くなっている。

地域別・市町別では、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 不安を感じる犯罪

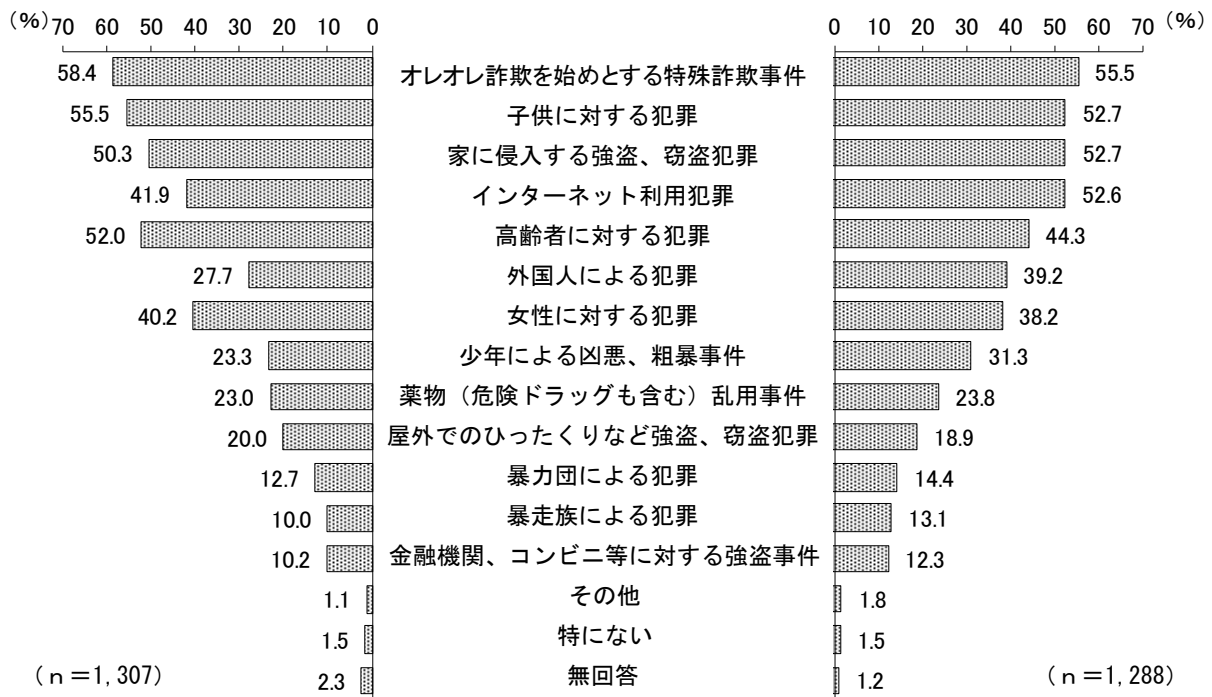
問47 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,288]

1	子供に対する犯罪	52.7%	8	暴力団による犯罪	14.4%
2	女性に対する犯罪	38.2	9	暴走族による犯罪	13.1
3	高齢者に対する犯罪	44.3	10	家に侵入する強盗、窃盗犯罪	52.7
4	オレオレ詐欺を始めとする 特殊詐欺事件	55.5	11	屋外でのひったくりなど強盗、窃盗犯罪	18.9
5	金融機関、コンビニ等に対する 強盗事件	12.3	12	薬物(危険ドラッグも含む)乱用事件	23.8
6	少年による凶悪、粗暴事件	31.3	13	インターネット利用犯罪	52.6
7	外国人による犯罪	39.2	14	その他	1.8
			15	特にない	1.5
				(無回答)	1.2

【令和2(2020)年】

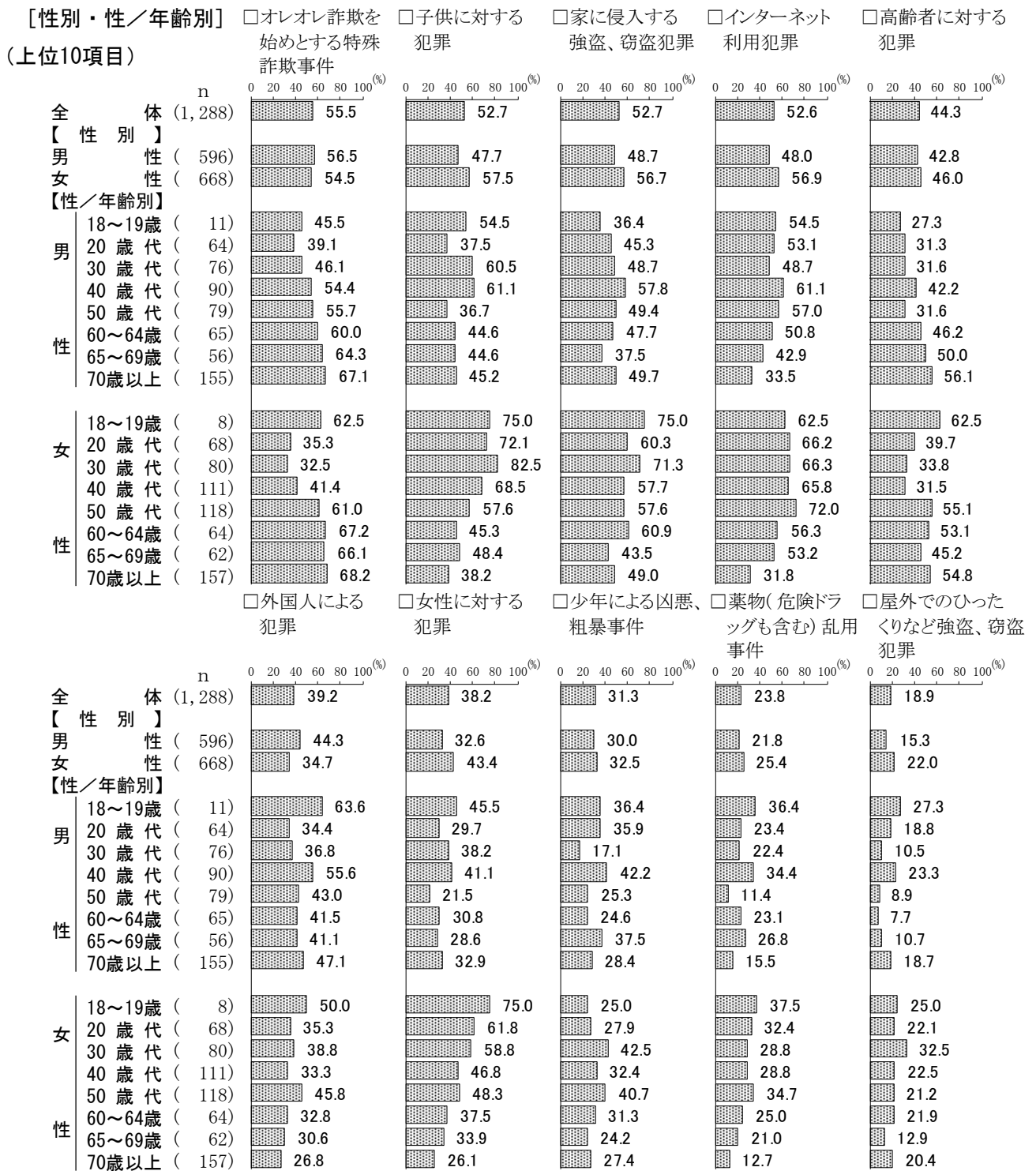
【令和3(2021)年】



(※) 令和2(2020)年調査で選択肢に加えていた「若者に対する犯罪」(11.1%)と「悪質商法による犯罪」(36.3%)と「食の安全・安心に関する犯罪」(9.6%)と「不法投棄等の環境に関する犯罪」(18.4%)は、今回調査では選択肢に加えていない。

全体でみると、「オレオレ詐欺を始めとする特殊詐欺事件」(55.5%)が5割半ばで最も高く、次いで「子供に対する犯罪」(52.7%)、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」(52.7%)、「インターネット利用犯罪」(52.6%)、「高齢者に対する犯罪」(44.3%)の順となっている。

前回(令和2(2020)年)の調査結果との比較は、一部の選択肢を変更しているため参考にとどまるが、「外国人による犯罪」が11.5ポイント、「インターネット利用犯罪」が10.7ポイント、「少年による凶悪、粗暴事件」が8.0ポイント、それぞれ増加している。「高齢者に対する犯罪」は7.7ポイント減少している。

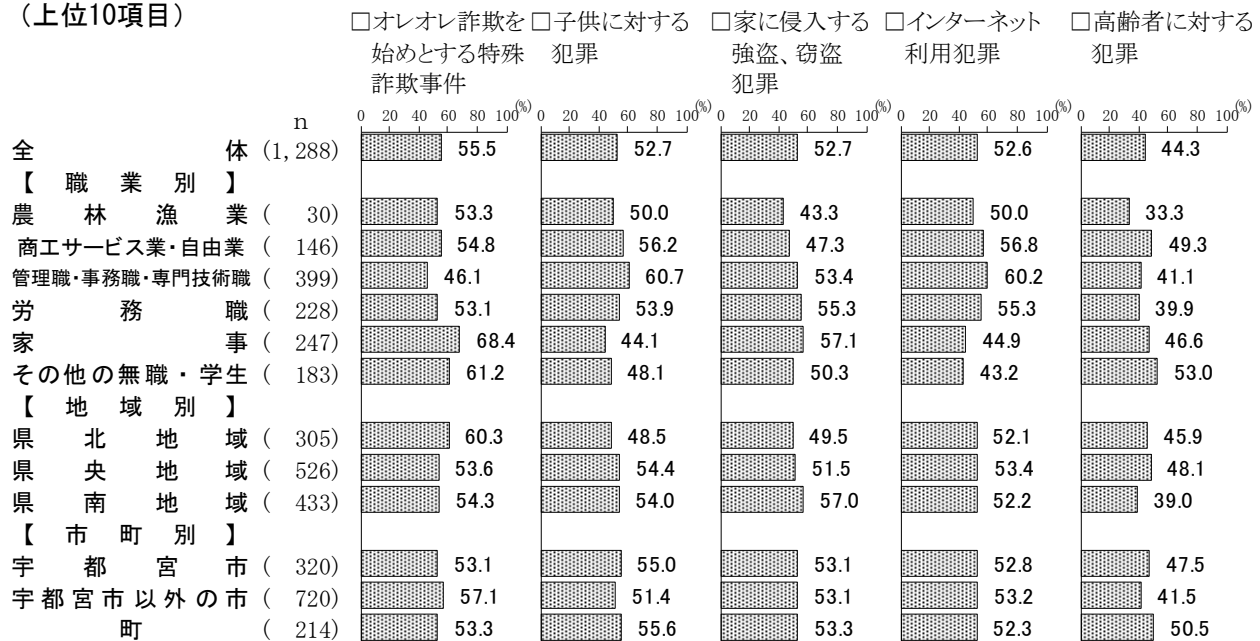


性別で見ると、「女性に対する犯罪」では〈女性〉(43.4%)が〈男性〉(32.6%)より10.8ポイント高くなっている。

性/年齢別で見ると、「オレオレ詐欺を始めとする特殊詐欺事件」では〈女性70歳以上〉が68.2%、〈男性70歳以上〉が67.1%と高くなっている。「子供に対する犯罪」では〈女性30歳代〉が82.5%、〈女性20歳代〉が72.1%、〈女性40歳代〉が68.5%と高くなっている。「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈女性30歳代〉が71.3%と高くなっている。「インターネット利用犯罪」では〈女性50歳代〉が72.0%と高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では〈男性70歳以上〉が56.1%、〈女性50歳代〉が55.1%、〈女性70歳以上〉が54.8%と高くなっている。「外国人による犯罪」では〈男性40歳代〉が55.6%と高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈女性20歳代〉が61.8%、〈女性30歳代〉が58.8%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]

(上位10項目)



職業別でみると、「オレオレ詐欺を始めとする特殊詐欺事件」では〈家事〉が68.4%と高くなっている。「子供に対する犯罪」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が60.7%と高くなっている。「インターネット利用犯罪」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が60.2%と高くなっている。

地域別でみると、「外国人による犯罪」では〈県南地域〉が49.2%と高くなっている。

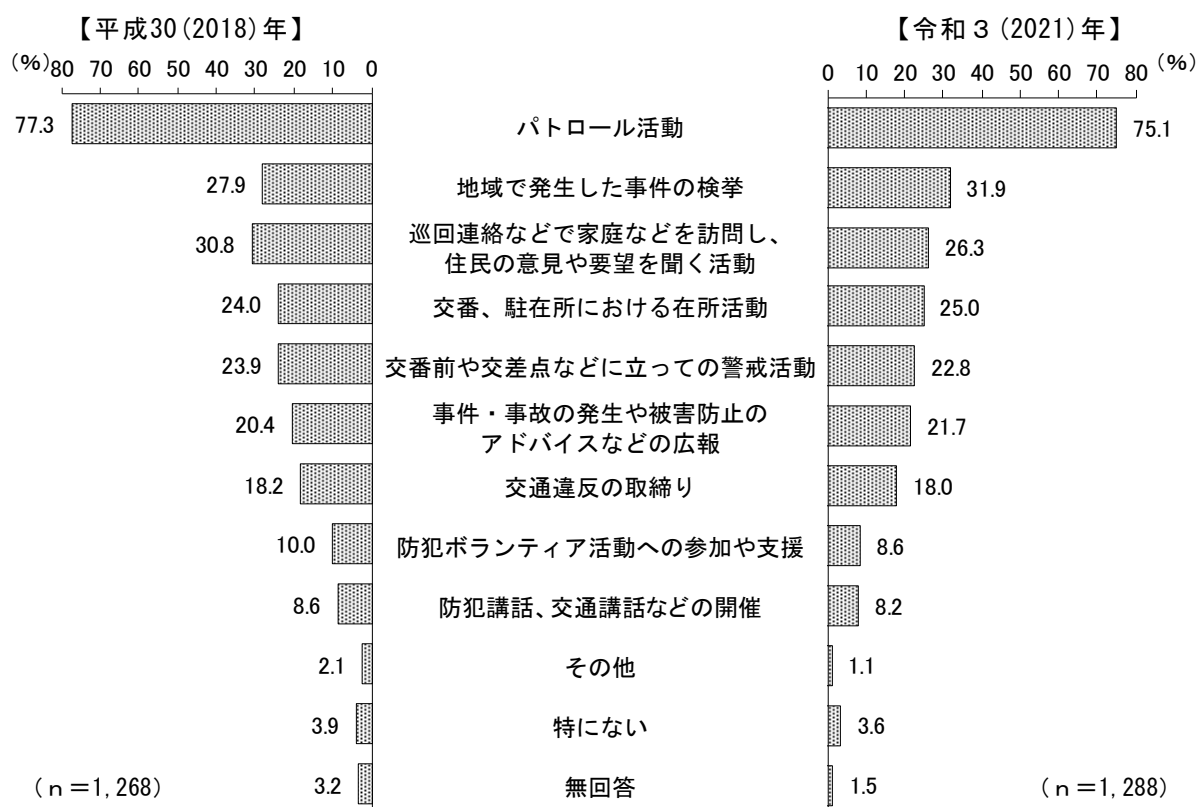
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(3) 警察官に力を入れてほしい活動

問48 あなたが、交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動は何ですか。次の中からいくつかでも選んでください。

[n = 1, 288]

1	パトロール活動	75.1%
2	交番、駐在所における在所活動	25.0
3	巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動	26.3
4	交番前や交差点などに立っての警戒活動	22.8
5	事件・事故の発生や被害防止のアドバイスなどの広報	21.7
6	地域で発生した事件の検挙	31.9
7	交通違反の取締り	18.0
8	防犯講話、交通講話などの開催	8.2
9	防犯ボランティア活動への参加や支援	8.6
10	その他	1.1
11	特にない	3.6
	(無回答)	1.5

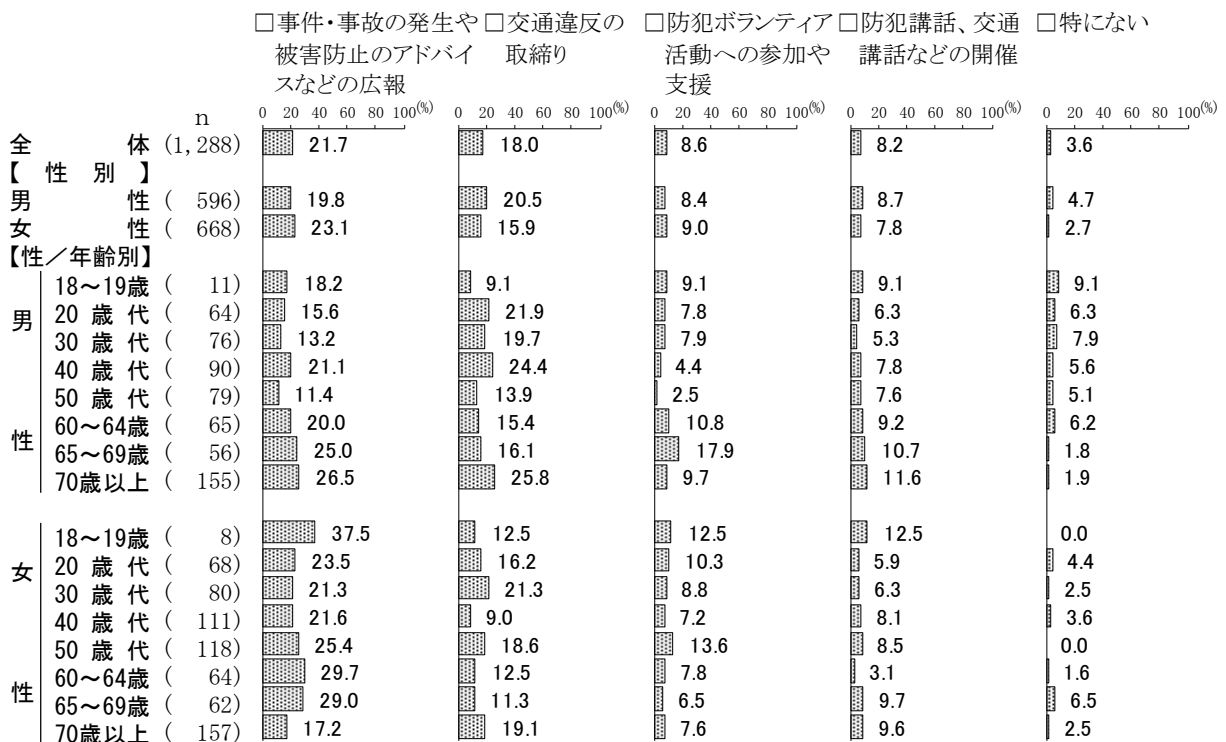
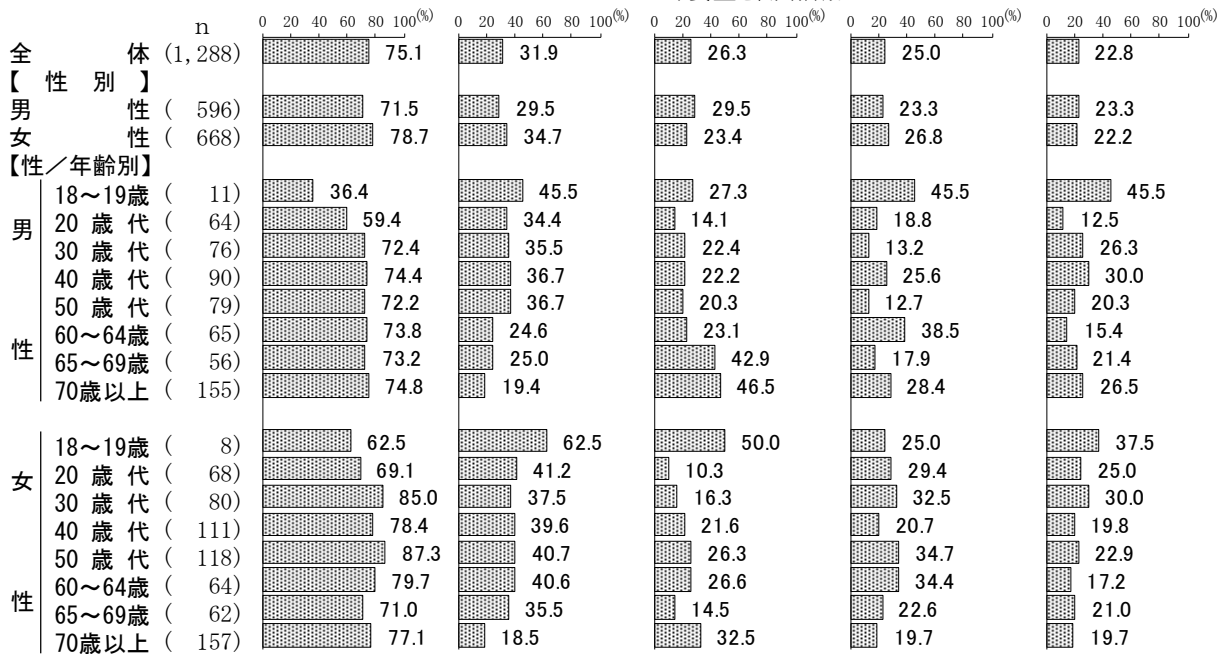


全体でみると、「パトロール活動」(75.1%)が7割半ばで最も高く、次いで「地域で発生した事件の検挙」(31.9%)、「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」(26.3%)、「交番、駐在所における在所活動」(25.0%)、「交番前や交差点などに立っての警戒活動」(22.8%)の順となっている。

前回(平成30(2018)年)の調査結果と比較すると、「地域で発生した事件の検挙」が4.0ポイント増加し、「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」が4.5ポイント減少している。

【性別・性／年齢別】 (上位10項目)

パトロール活動
地域で発生した事件の検挙
巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動
交番、駐在所における在所活動
交番前や交差点などに立っての警戒活動

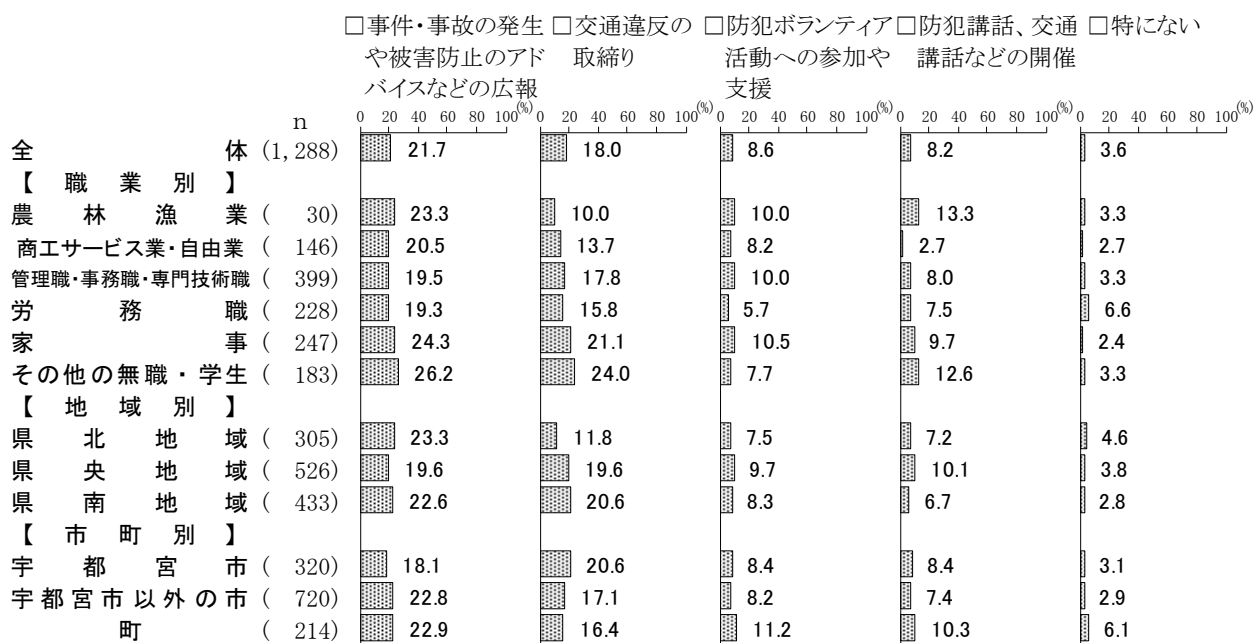
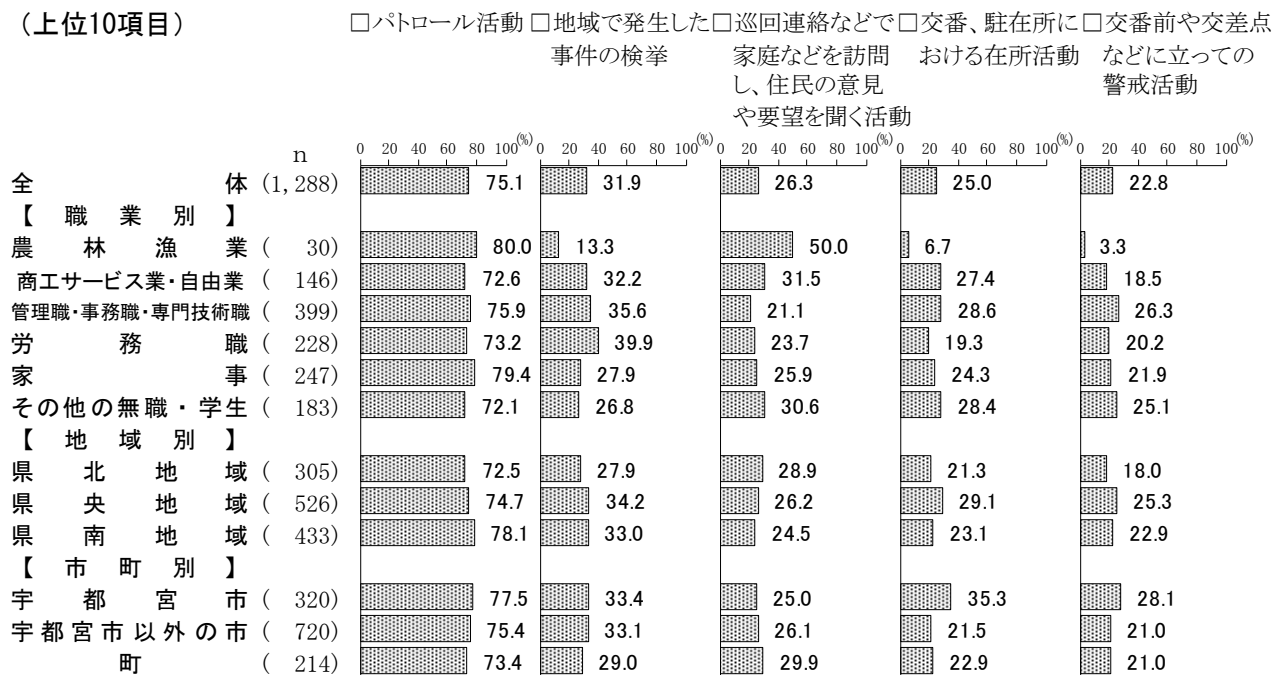


性別で見ると、「パトロール活動」では〈女性〉(78.7%)が〈男性〉(71.5%)より7.2ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「パトロール活動」では〈女性50歳代〉が87.3%、〈女性30歳代〉が85.0%と高くなっている。「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性70歳以上〉が46.5%、〈男性65~69歳〉が42.9%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]

(上位10項目)



職業別でみると、「地域で発生した事件の検挙」では〈労務職〉が39.9%と高くなっている。「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈農林漁業〉が50.0%と高くなっている。

地域別でみると、「交番、駐在所における在所活動」では〈県央地域〉が29.1%と高くなっている。

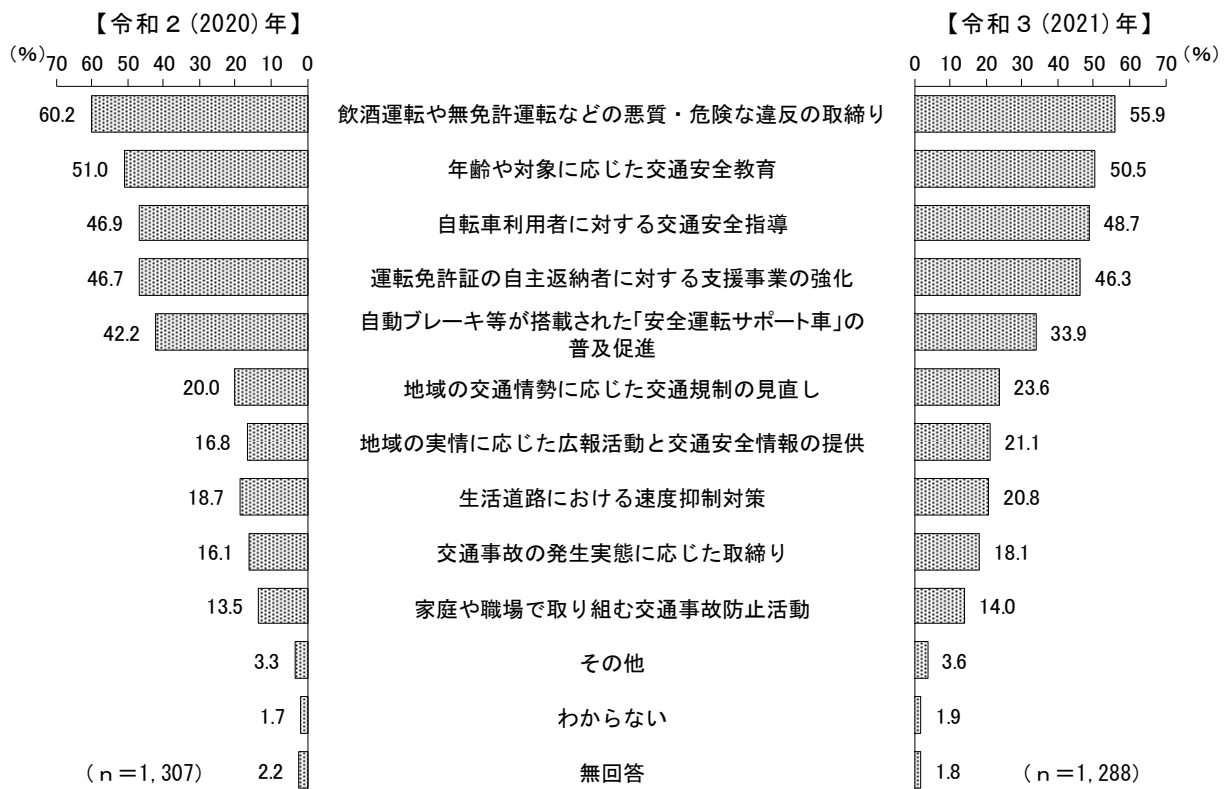
市町別でみると、「交番、駐在所における在所活動」では〈宇都宮市〉が35.3%と高くなっている。「交番前や交差点などに立っての警戒活動」では〈宇都宮市〉が28.1%と高くなっている。

(4) 交通事故を抑止するための対策

問49 交通事故を抑止する上で、あなたはどのような対策が効果的だと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,288]

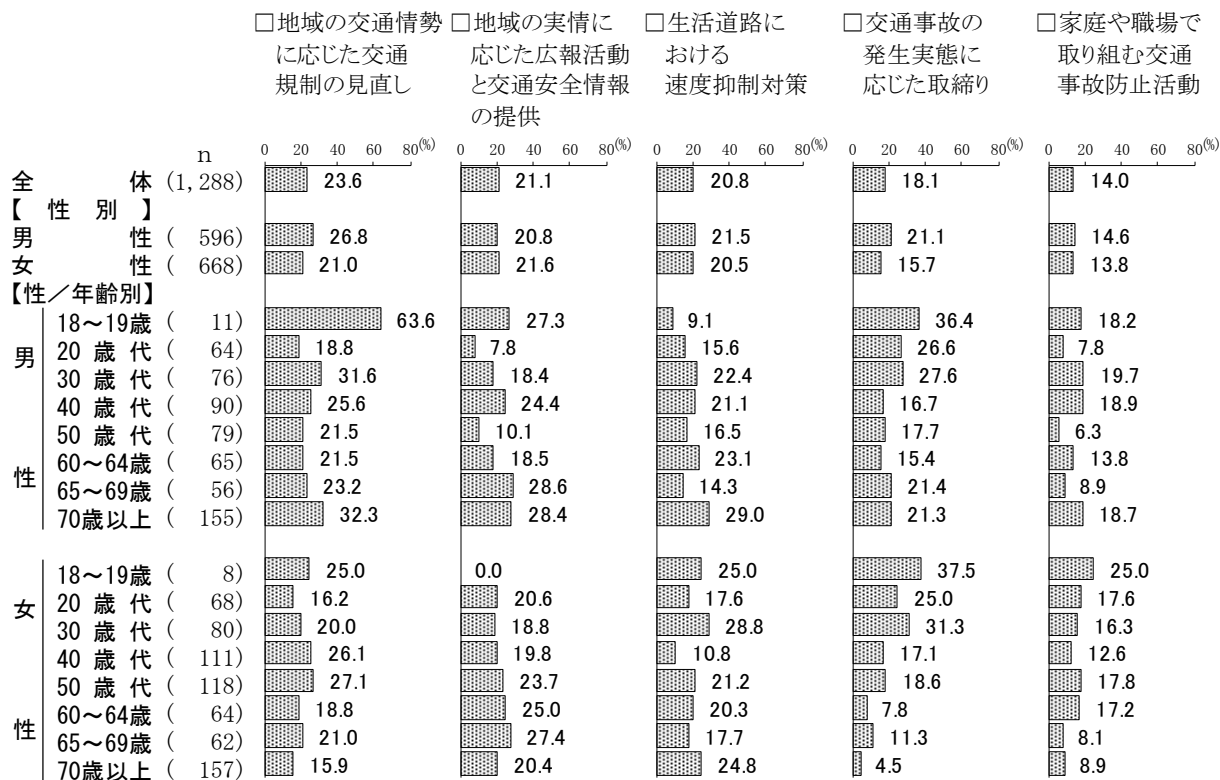
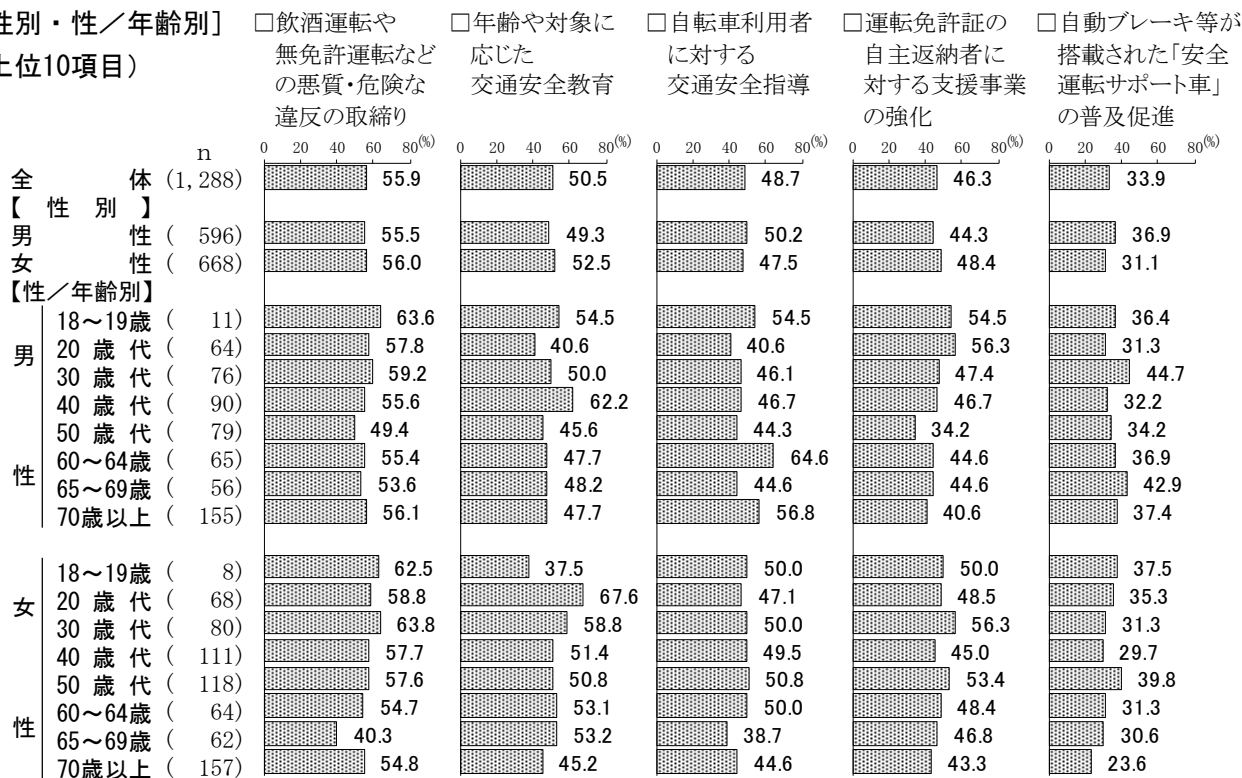
1	年齢や対象に応じた交通安全教育	50.5%
2	家庭や職場で取り組む交通事故防止活動	14.0
3	地域の实情に応じた広報活動と交通安全情報の提供	21.1
4	飲酒運転や無免許運転などの悪質・危険な違反の取締り	55.9
5	自転車利用者に対する交通安全指導	48.7
6	交通事故の発生実態に応じた取締り	18.1
7	地域の交通情勢に応じた交通規制の見直し	23.6
8	生活道路における速度抑制対策	20.8
9	運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化	46.3
10	自動ブレーキ等が搭載された「安全運転サポート車」の普及促進	33.9
11	その他	3.6
12	わからない	1.9
	(無回答)	1.8



全体でみると、「飲酒運転や無免許運転などの悪質・危険な違反の取締り」(55.9%)が5割半ばで最も高く、次いで「年齢や対象に応じた交通安全教育」(50.5%)、「自転車利用者に対する交通安全指導」(48.7%)の順となっている。

前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、「自動ブレーキ等が搭載された『安全運転サポート車』の普及促進」が8.3ポイント減少し、「地域の实情に応じた広報活動と交通安全情報の提供」が4.3ポイント増加している。

[性別・性／年齢別]
(上位10項目)

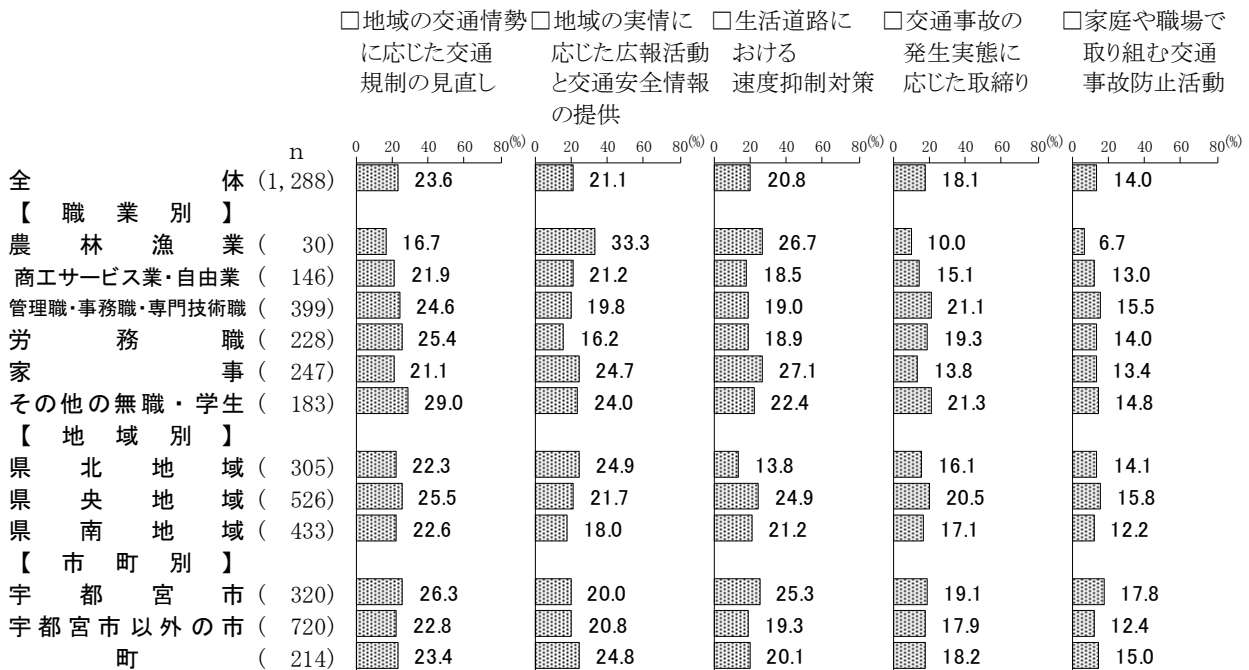
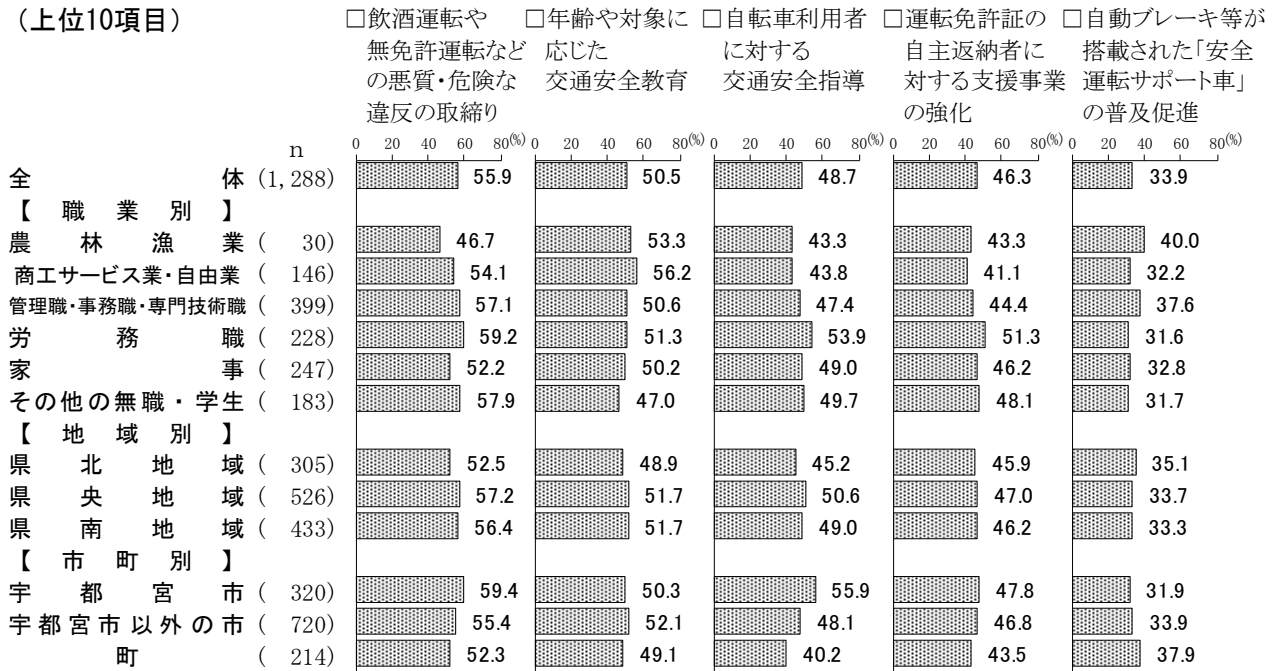


性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「年齢や対象に応じた交通安全教育」では〈女性20歳代〉が67.6%と高くなっている。「交通事故の発生実態に応じた取締り」では〈女性30歳代〉が31.3%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]

(上位10項目)



職業別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

地域別で見ると、「生活道路における速度抑制対策」では〈県央地域〉が24.9%と高くなっている。

市町別で見ると、「自転車利用者に対する交通安全指導」では〈宇都宮市〉が55.9%と高くなっている。「生活道路における速度抑制対策」では〈宇都宮市〉が25.3%と高くなっている。「家庭や職場で取り組む交通事故防止活動」では〈宇都宮市〉が17.8%と高くなっている。